Voice

## 安田 菜津紀

## HIVと共に生きる

ーイという少年。

6畳

エイズ村、と呼んでいた。

「ねえみんな、池に魚釣りに行こう

そして周辺の住人は、嫌悪を込めて

全家族が、HIVの感染者を抱え

from カンボジア

外で駆け回る子どもたちの輪の中

ぼれる。 の姿に、周囲の大人も思わず笑みがこ まみれてキャッキャとはしゃぐト 捕まえるのは、兄弟たちの仕事。 うぎゅうで暮らしていた。魚やカニを ほどに仕切られた一部屋に、家族ぎ た。この村に暮らすト ある日のこと、 人兄弟の末っ子として生まれ、 ひときわ元気のいい声が響き渡っ

ショッピングや遊園地に行くのではな は月に一度、母親と首都に出かける日。 ったの?」。そう声をかけても、 ようとしない。「どうしたの?何かあ ん」と曖昧に返事をするだけ。

今日

に青々とした田んぼが見えてきた。そ

いう間に過ぎ去り、

赤茶色の道の両側

ルが軒を連ねる都市の姿はあっと

ル

や大型シ

ヨッピング

都プノンペンから車で走ること約

緑の村への真実

っている彼が、うつむいたまま外に出

いつも朝から走り回

んなのどかな村々の間に、緑色のトタ

HIV新規患者の3人に1人が母子感 その後母親にうつり、そして彼に感染 染していた。父親が売春宿で感染し、 してしまった。現在カンボジアでは、 病院の診察を受けに行くという。 ウイルスと闘い続けているト イは生まれながらにHIVに感

れる中、ここは極めて特殊な状況。そスラムが相次いで首都から強制撤去さ

42家族が暮らす。近年の開発に伴い、 都から立ち退きとなったスラムの住人 ばれるその地区には、2009年に首 ン屋根の長屋が。トゥオルサンボと呼

た。その2人に子どもが生まれたのだ。 染者であることを知りながら結婚し 相手のバンナさんは、彼女がHIV っと、その寝顔を見つめていた。 様子を見ようと代わる代わる訪ねて れなかった。村人たちが、 彼らの子どもにHIVの感染は見ら イも大人たちの後ろからそ 赤ちゃんの

ていた彼の身長は、7、8歳の子ど見える。このとき12歳になろうとし

彼女自身も夫から感染していた。再婚

もと変わらなかった。

ど、不安要素は尽きない。ウイルスだ コンクリート造りの家が建てられていその場所には海外のNGOが建設した 人たちは今日も、新しい命をつないで けではなく、 費もかさむ。 職が見つかりづらく、 ものの、首都から遠く離れた場所では 彼らの居住環境は多少改善された 偏見とも闘いながら、 周囲の集落との摩擦な 病院までの交通 残念なが

どに通わず、

病院で出産する習慣も

制度がほとんど整っていない。

そのた

め特に貧困層の母親は、

母子健診な

根付いていない。ト

イの母親、シ

ど適切な処置をした場合、

母子感染

を5%まで抑えられるといわれて

緑のトタン屋根はなくなり、

しかしカンボジアでは、医療保険

開での出産、その後の母乳の遮断な

IVは、母親の薬の服用、

母子をHIVから守る

動の一つ一つが集うことで、 るのではないだろうか 私たちが耳を傾け続けること、知った 声を出せない立場にいる。だからこそ、 ことを誰かに伝え続けること。その行 しかしほとんどの場合、その当事者た 問題、として扱われることがな たくさんの人に認識されない限り イやその家族のように自ら を止める力とな エイズと

としていった。そのたびにこの小さな

した村人が一人、また一人と命を落

そんな中、一つの命の誕生が、村に新

村を自ら去っていった者もいた。

大きな不安がよぎった。職を求

しい風を吹き込んだ。ヨッラ

さん

その後の3年間で、エイズを発症女はただうつむくばかりだった。

えるだけのお金はなかったんです。

きちんと診断を受けていたら…」。彼

まいました。でもあの時、

病院に通

ボルさん(39)は語る。「自分の感染に

気付かないまま、この子を産んでし

D.電気はほぼ使えず、夜はろうそくの明かりを頼りに村を歩く E.タ方のスコール。村人たちはその雨で洗濯を済ませる F.夜明けと共にまた魚釣りへ。雨期は恵みの季節だ

A.村で生まれたばかりの子犬たち。番犬の世話も子どもたちの役割だ B.診察が始まると、トーイの顔がますますこわばっていく C.赤ちゃんの笑顔に、バンナさん一家に温かな時間が流れる

泥に



片隅に暮らす年の離れた夫婦。ヨ

バンナさん(62)という、

さんは前夫をエイズで亡くし、

1987年神奈川県出身。studio AFTERMODE所属フォトジャーナリスト。16歳の時、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアを訪問。現在、カンボジ アを中心に、東南アジア、中東、アフリカ各地で取材を進める。東日本大震災以降は、陸前高田市などの被災地も記録し続けている。2012年「HIVと共に生まれる ーウガンダのエイズ孤児たちー」で第8回名取洋之助写真賞受賞。共著に『アジア×カメラ 「正解」のない旅へ』(第三書館)、『ファインダー越しの3.11』(原書房)。 ホームページ: www.yasudanatsuki.com



















